



月刊 第 597 号

祭りと春耕のとき

俳句で「祭り」は夏の季語であるが寺泊の祭りの季節は春である。四月六日の野積の祭りを皮切りに次々と各集落で祭りの織が春風にはためいて待ちに待った春の訪れとともに郷愁を

そそる年中行事であり何となく童心に帰り心ときめくものを感じる、そして五月三日の白山媛神社の大祭で打止めとなる。昔からの祭りの日をしつかり守りつづけている集落もあり、

休日に合わせて変更した集落もあり、それはそれぞれの事情の中での取り決めであるが、四月六日の野積地区十九日の年友地区は昔ながらの日取りを守りつづけており、会社勤務を休暇にして費って伝統を守っている若者もいると聞いて会社の理解もさることながらその意気込みに敬服する。

白山さまの祭りは幸いなことに憲法発布記念日の祝日と重なり、しかも次いで子供の日へと四日は国民の休日と言うことで公認の三連休で計らずしてまさに「好日」である。

この祭りの季節はまた花の季節で桜の開花がまさに花を添えそれと同時に農作業が準備段階から春耕、筋蒔き田植へと展開してゆく。田植えの事情もすっかり変化して甫場整備の進んだ田圃は広々とくつきりと区割されて国上山や弥彦山から見下ろす蒲原平野は美しく米どころの面目躍如と言った景観である。

健康指向のウォーキング、トレッキング、山歩きは年々盛んで春の山歩きは特に人気で晴天の休日など渋滞する程の賑わいとなることもある。

ツバキが咲き、雪割り草、二輪草、桜も種類によって程よく次々に開花、今はカタクリの群生が見頃である。

最近では自然保護の意識も高まって盗掘してちんまり自分の庭で眺めるより大自然の中の

群生を足を運んで眺めることで健康増進と一挙兩得と心の余裕がでてきたように感じる。

苗代や大勢で賑やかな田植えそして早苗振舞となつかしい風景や行事も時代の流れの中で消えて行ったのも惜しまれるところであるが、それは万事合理化や経済性が優先されその恩恵を随分と享受してきたのだから止むを得ないところであろうが、ハウスでの育苗や機械化された農作業の中で微妙な管理や維持管理に気が休まらぬと言う話を聞くにつけ仲々全てよしなんてことのない人生に疲れと淋しさを感じるのは年のせいであろうか。

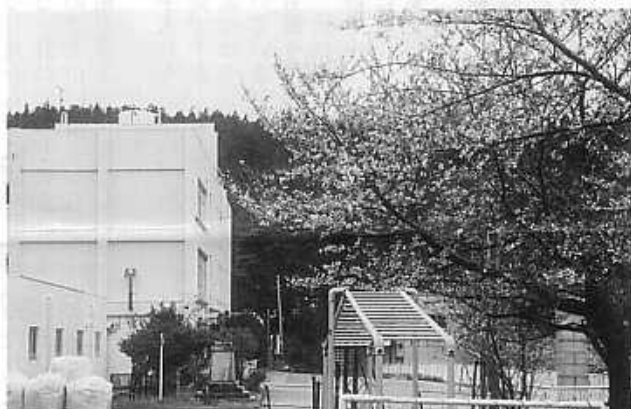
長岡市と言う新調の衣装に身



寺泊のさくらを追ってみました。通称照明寺のひろっぱ。当寺16代大弘僧正の墓は子供達のよい遊び場だった。観音堂裏側の広場は三角ベースの球場だった。



今は養泉寺の墓地になっている元校長住宅の桜。かなり古木でここからは弥彦山、日本海と佐渡が見るかせて仲々の眺望である。



寺泊小学校の桜は校舎建設の際ほとんどが切り倒されて大地への道即裏側に僅かに古木が残りあとは若木である。



野積小学校は閉校から一年、人気のない学校は淋しい。グラウンドに野球のヘルメットが1個転がっていたのが哀れ。桜は元気に満開。二宮金次郎の後姿もさびしそう。



ここは寺泊でないが渡部の天神さまは大和田のチチヤと並んで低学年の定番の遠足コースだったなつかしい場所。頂上に石の牛がいたと思うのだが。



隧道川の吐き出し口の正面の桜。この桜の木の下に河童をまつた祠がある。この川でもいく人かの子供が命をなくしている。今はこの川で遊ぶ子の姿はない。

をつつんでいささかの緊張めいたとまどいと希望の中で未だ服が身になじまず、それでも休みなく動いてゆく日常の中でなしく崩しのような形で馴染んでゆくのであろう。

今年の観光ポスターは公募の中で四十八点の中から東京都の石坂修三さんの作品「にっぽん」にいがた、海のまち」のキャッチフレーズに「きてくんなせや」の方言でインパクトを加えたポスターも刷りあがり已にゴーサイン、野積に岬温泉「太古の湯」もオーブン、美しい海岸を町民の手でと四月二十三日は一勢海岸清掃をボランティア、五月二十一日には「みんなあつまれ！でらどまり渚ウエーブ」が開催

暖かくなってきました。この春、ヒーターなしで済んだ初めての日は四月十二日。長岡地方は二十三度まで気温が上がりました。六月上旬の暖かさでした。

今年の三寒四温の時は、五寒一温くらい感覚。寒さに圧倒されました。まだまだヒーターの片付けという訳にはまいません。灯油の買置きにも目が離せません。

先月号で「庭木の梅が蕾をふ

三角ベース

さしうのぶひと

からませ、今まさに開花寸前」などと書きましたが、あれからまた寒の戻りがあった、梅は蕾のまましばらく停滞してしました。その間、梅の隣にある桜の蕾がどんどん成長し、驚くくらい、梅と桜が同時に開花したのです。両方とも同じ年に植えて十数年。桜(染井吉野)は梅の三倍ほどの大きさに育っています。魚沼の豪雪地帯では、梅と桜が一緒とはよく聞きますが、この寺泊でこんなことはありませんでした。

どこか狂ってきたのではないかと？ 温暖化や農業汚染、環境ホルモンなどの報告を読むと、地球全体の生態系バランスが崩れ始めていることを知らされま

す。大仰な見地からすれば、庭木の異変など針の穴ほどにも匹敵しないのですが、そこから地球全体が見えるということもありません。

ろくに手入れもしない、粗末で小さな庭ですが、黄色のラッパ水仙と紫のヒヤシンス、赤の藪椿が咲いています。レンギョウの黄色も鮮やかです。プランターには、秋に植えたパンジーが混色の妙を主張しています。こんな玩具のような植生でも、春を楽しむには十分すぎるほどです。しかしもう少し目を凝らして庭を見てみましょう。雑草と呼ばれ、与太草と嫌われる植物がたくさん芽吹いています。これらの植物は、毎年入れ替わったり、移動したりしています。同じ状態で居続けることはまずありません。

さて、この雑草の下に土があり、土の中には数え切れない数の微生物が暮らしています。微生物は木の葉や枯れ枝などの有機物を分解し、栄養を作り出します。栄養状態は均一ではありませんから、状態に応じて植生は分化します。栄養のない土を好む雑草、富栄養の土を好む雑草と色分けされていくのです。日照時間も影響しますが、雑草の種類は土壌の質を表現すると言っているようです。

ところで最近感じるのは、木の葉や枯れ枝の分解速度が遅くなったということです。微生物



寺泊中学校の沿道の桜。今年古希を迎える同期の仲間が還暦記念に植えたのだから丁度10年になる。記念碑には「花よ咲け、いのち輝け」とある。



寺泊岬温泉「太古の湯」のオープンにつめかけた人の列。これで「きんばちの湯」、「年友温泉」と寺泊だけで三つのお湯が楽しめることになった。



小泊では刺網漁が行われている。網の性能は日進月歩であるが、その分はずすのが大変。今日はハネゴ(スズキ)が沢山獲れた。

の数が減った、あるいは微生物の活力が弱まった。土壌微生物は食物連鎖の基礎ですから、これが本当ならば極めてゆゆしき事態に直面しているということが出来ます。杞憂であればいいのですが。

ワイルド・ベースボールがあり、高校野球があり、プロ野球の公式戦が始まりました。テレビでスポーツ番組を見ることはあまりありません。スポーツ嫌いな人の中には、人が見えていけばお仲間入りをさせてもらっています。

野球は見始めると面白い。どっばり嵌ってしまいます。自分が見たり参加したあらゆるスポーツの中で、野球が一番多かったわたしは、バッテリーボツ

顔ぶれを中心になつていたのが、小岩井孝三さん、山田栄三郎さん、高橋誠さんなどでした。一番の年少で、運動神経の鈍かったわたしは、バッテリーボツ

クスの入る前、「いいか、絶対に振るな。フォアボールで塁に出れ」と先輩から秘策を授けられ、構えだけは一人前の野球選手。こういうのを「人形バッテリー」と呼んでいました。波のスコアボードは砂の上。波のある日は、防波堤の岩間から海水が押し寄せ、掻き消されてしまうこともありました。こうして、軟式のテニスボール一個あれば、夕方遅くまで野球に興じることができたのです。グローブを買ってもらったのは、それからずっと後のことになりました。今から考えると、あの二塁のない「三角ベース」という発想は、少ない人数で野球を楽しめる素晴らしいアイデアではないでしょうか？

誌代御後援(敬称略・順不同)

- | | | | |
|-----|-----|------|------|
| 東京市 | 笹平 | 京子 | 金三千元 |
| 田中 | 桂子 | 金三千元 | |
| 小泉 | 栄美子 | 金三千元 | |
| 下鳥 | ハル | 金三千元 | |
| 栗山 | セツ | 金三千元 | |
| 皆川 | 敏雄 | 金三千元 | |
| 小川 | 原 | 金三千元 | |
| 板谷 | 文夫 | 金三千元 | |
| 湧井 | 正 | 金三千元 | |
| 市川 | 正雄 | 金三千元 | |
| 丸山 | イネ | 金三千元 | |
| 石原 | 勝子 | 金三千元 | |
| 長谷川 | 一成 | 金三千元 | |
| 本間 | 美知子 | 金三千元 | |
| 外山 | 健 | 金三千元 | |
| 渡辺 | 浩一 | 金三千元 | |
| 山田 | キヨ | 金三千元 | |
| 渡辺 | マツイ | 金三千元 | |
| 水沢 | 文夫 | 金三千元 | |
| 佐藤 | 豊吉 | 金三千元 | |

小波会四月句会詠草

兼題 苗代・入学他当季

苗代に

いのちの緑ひしめけり

中村 流瓢

苗代も

田にも人無く村暮るる

能登 頑牛

苗代田

遠山に雪残りけり

小島 温石

苗代は

名のみの季語や雨しとど

外山 海子

四苦八苦

一人で着替え入園す

江原 汀子



今年度第一回の地域委員会（市長の附属機関で地域の町づくりにかかる提言や市長の諮問に答申）を傍聴。仲々大変な仕事である。

入学子

たつぶりの夢靴音に

広瀬 洋子

入学の

付添いボチは尾を立てて

大越 碧水子

入学児

ふたたびみたびふりむけり

加勢 白汀

やんちゃの子

かしこまってる入学式

竹内 霍山

タンポポや

ままごと遊びする子なく

水沢 桂子

朱鷺色の

霞にうかぶ金北山

内藤 蓮子



朝は海岸の散歩と海に向っての詩吟の朗詠にはじまると言う誌友でもある能登喜代二さん。80才を過ぎても元気はつらつ。

日本海を

手中にをさめ春の虹

小島 冬扇

揺れる藻の

浅き海辺や水温む

外山きよし

あとがき

山間部の豪雪にはばまれて年末年始は勿論三月まで今までに

なく打撃を受けたふるさととの観

光でしたが関係業者の懸命の努

力は桜の開花と共に客足も回復

しはじめました。

海も日毎輝きを増して海岸の

市場通りや釣船も賑わいはじめ

ています。

四月十六日の岬温泉「太古の湯」のオープン当日は早々と入

場者の行列が出来て一時渋滞する程でした。

佐渡への日帰り観光も昨年同様割引料金で適用されコースも2コースが設定された他日帰り湯つたりバック、レンタカーバック、2日間観光バックと選択肢が増え、ほーとあいらんど号による越後七浦周遊航路が開

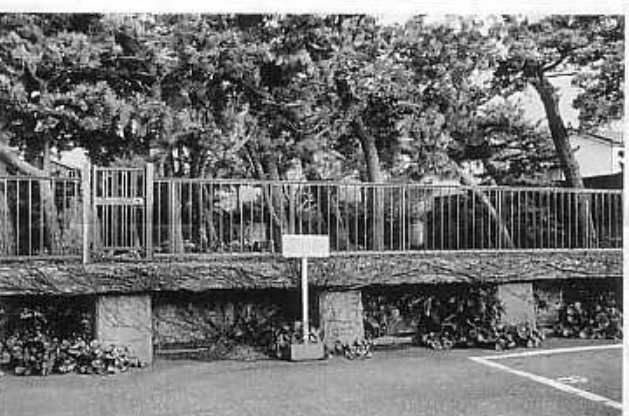
設され四月二十八日一時から試乗会が予定されています。

四月十六日には東京寺泊会が例年通り芝パークホテルで開催されましたが日程の都合がつかず大変失礼しました。来年には

已に終刊ですから今までの御礼もかねて是非出席せねばならぬ

ところでしたのにすみません

でした。新会長さんそして新長



上田町河忠さん裏のかつての波よけ。この辺は下調と呼ばれていた。今は駐車場となり、海までは500メートルもある。

毎月二十日発行

寺泊ふるさとだより

誌代税共(百円)

編集人 中 村 興 樹

発行人 新 潟 県 寺 泊 町

発行所 新 潟 県 寺 泊 町

郵便番号 九四〇一二五〇二

ダイヤル局番 〇二五八七五

電話 二〇二一九番

印刷所 吉野印刷株式会社